

請 願 文 書 表

受理番号	7-2	受理年月日	7. 2. 21	付託委員会	建設常任委員会
請願者の住所及び氏名	京都府京都市右京区太秦朱雀町1-118 二之湯 真士			紹介議員	本城 隆志
件 名	北陸新幹線の小浜・京都ルートは撤回すべきであるとの決議を求める請願				
要 旨	城陽市議会において「北陸新幹線の小浜・京都ルートは撤回すべきである」との決議を求めます				

< 請願の趣旨 >

城陽市議会において「北陸新幹線の小浜・京都ルートは撤回すべきである」との決議を求めます

< 請願の理由 >

北陸新幹線の敦賀以西ルートについては、平成29年3月に与党整備新幹線建設推進プロジェクトチームが、「工期・工費・費用対効果」等の点から優位であるとして、小浜・京都間を大深度地下において長大トンネルで掘り進む小浜・京都ルートに決定した。

ところが、その小浜・京都ルートは、昨年8月に開かれた与党北陸新幹線敦賀・新大阪間整備委員会において、資材費高騰や人手不足が影響し、概算事業費が当初試算から2倍以上の最大5.3兆円にも膨らみ、工期も15年から最長28年に伸びることが国土交通省から報告され、ルート検討時の着工に係る前提条件に大幅な変更が生じた。

この試算に従えば、沿線自治体である京都府の事業費負担額も大幅な増加が見込まれる。それによって、新幹線以外の公共事業が減少し老朽インフラの改修や更新等に支障を来すのみならず、教育・福祉・産業支援など広範にわたる京都府の諸施策が縮小や劣化をし、城陽市のまちづくりや市民生活への悪影響が懸念される。

また、駅建設予定地の京都市においても、大深度地下における長大トンネル工事による地下水への影響、地上の陥没事故、膨大な建設発生土の処分、その運搬に伴う交通渋滞等に対する市民の不安が日に日に大きくなり広がっているのが現状である。

更に、工期の大幅延長が予想される中で、石川県など北陸地方からも小浜・京都ルートの見直しを求める声が上がっている。既に小浜・京都ルートは、京都府にも北陸にも、そして国家全体にとっても望ましいものではないことは明白である。